



TITLE:

アフリカの潜在力とは何だろう？

AUTHOR(S):

太田, 至; 大山, 修一; 市野, 進一郎

---

CITATION:

太田, 至 ...[et al]. アフリカの潜在力とは何だろう？. 京都大学アカデミックデイ2015: ポスター/展示 2015

ISSUE DATE:

2015-10-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/201313>

RIGHT:

# アフリカの潜在力を活用した 紛争解決と共生の実現に関する 総合的地域研究

Comprehensive Area Studies on Coexistence and Conflict  
Resolution Realizing the African Potentials

太田 至 (京都大学アフリカ地域研究資料センター・教授)

## 1. 現代アフリカにおける紛争の激化

1. チャド：内戦
2. スーダン：内戦
3. スーダン：ダルフール内戦
4. エリトリア：独立戦争
5. エリトリア・エチオピア：国境紛争
6. ソマリア・エチオピア：オガデン紛争
7. ソマリア：内戦
8. ウガンダ：内戦
9. ルワンダ：民族対立、内戦
10. ブルンジ：民族対立、内戦
11. モザンビーク：内戦
12. 南アフリカ：反アパルトヘイト闘争
13. コンゴ民主共和国：内戦
14. アンゴラ：内戦
15. 中央アフリカ：内戦
16. ナイジェリア：ニジェール・デルタ紛争
17. コートジボアール：内戦
18. リベリア：内戦
19. シエラレオネ：内戦
20. セネガル・モーリタニア：紛争
21. マリ・ニジェール：トゥアレグ問題
22. 西サハラ：内戦



1990 年以降、大規模な内戦や民族紛争が多発している

## 2. 困難な状況に対処する研究の必要性

民族紛争・宗教対立や内戦にともなう一般市民同士の激しい暴力行為

社会の解体と疲弊

紛争の解決と共生の実現に貢献する研究が  
社会から求められている

## 3. 国際社会による 紛争解決に向けた従来の試み

- ・ 国連や地域機構などによる介入
- ・ NPO を主体とする  
市民社会組織による支援

軍事介入、経済制裁、停戦・和平協定の  
締結支援、紛争後社会の制度構築支援、  
国際刑事裁判所 (ICC) による司法介入

アフリカの紛争に対する  
国際社会による介入は、  
成功例より失敗例のほうが  
はるかに多い

「アフリカ人の  
生活の現場から発想する」  
という指針転換が必要

## 4. プロジェクトの目的とふたつのキーワード

- ① アフリカ人が紛争解決と共生のために創造し、運用してきた  
知識や仕組み (= 潜在力) を再評価する
- ② 外部社会との折衝のなかで、その潜在力を変革してきた能力  
(= インターフェース機能) に着目し、その可能性を拡げる

## 特色

### 5. 日本とアフリカの連携プロジェクト

- ・ アフリカ社会の内在的な理解を深めてきた日本のアフリカ研究の蓄積
- ・ アフリカ研究を先導してきた京都大学が中心となって研究組織
- ・ アフリカ人研究者・実務者との緊密な協力体制
- ・ アフリカの NPO・政府／国際機関と連携
- ・ 「紛争・共生フォーラム」をアフリカで毎年開催



## キーワード

### ① 6. 「アフリカの潜在力」とは？：西アフリカ・サヘルの事例

#### サヘル：農耕民と牧畜民が共存する地域

サハラ砂漠の南縁に位置するサヘルでは、  
農耕民と牧畜民が同じ地域に居住する



人口増加と土地資源をめぐる競合  
サヘル地域では、人口が年率 3.7% で増加  
農地の拡大と限定された放牧地

#### 賠償金をめぐる争い

牧畜民の家畜が農耕民の  
作物に食害を与える

農耕民に捕らえられた牧畜民の家畜 ↓



賠償金について交渉

多くの賠償金を得ようとする農耕民  
食害の事実をみとめようとしない牧畜民

→ 交渉が決裂すると、殺傷事件に発展することも



#### 仲裁する村住みの牧畜民

賠償金をめぐる争いには、村に居住する牧畜民が  
仲介し、農耕民と交渉して解決するしくみがある

- ① 食害を受けた農耕民
- ② 食害を与えた牧畜民
- ③ 交渉を仲介する農耕民
- ④ 交渉を仲介する牧畜民

①と②の直接交渉だけでは議論が感情的になる危険性が  
高いので、仲介者として村住みの牧畜民④と村の有力者  
である農耕民③の二人が交渉をとりまとめようとしている。

## キーワード

### ② 7. 「インターフェース機能」とは？：ルワンダの事例

#### ルワンダ：1990～94年の紛争とジェノサイド

フトゥ人強硬派を主体とする勢力がトゥチ人やフトゥ人  
穏健派を攻撃し、約 50 万人が死亡。敵対している勢力が  
関係を修復し、ともに生きていける社会を作ることが課題

#### 紛争時の罪をどう裁くのか

「ふつうの人」を裁くことの難しさ

- ① 膨大な数の民間人が殺戮に関与
- ② 政権が虐殺を公認
- ③ 司法制度の機能不全
- ④ 罪を問うことが対立を再生産するおそれ

「正義」を示しながら「和解」を進める必要

#### 伝統的制度と近代的司法をつなぐ試み、ガチャチャ

村で開かれていた芝生での会議  
「ガチャチャ」を、  
紛争時の罪を裁く場として  
国家が法制化



↑ ガチャチャの実施を伝える看板

2005 年以来、  
約 120 万件を審理  
加害者による謝罪や賠償を重視  
現政権による「勝者の裁き」になっているとの批判も

